

# 派遣留学生帰国報告書

\* 復学後の情報を入力してください

記入日	2016年8月15日		
所属学部	融合理工学府		
所属学科・専攻	創成工学専攻デザインコース		

## 1. 留学先について

留学先大学名	①グラスゴー美術大学、②パリデザイン大学			
留学先所属学部等	①プロダクトデザイン学科、②インダストリアルデザインコース			
留学期間	出発日 2016年9月6日	入学日 2016年9月21日	修了日 2017年7月21日 帰国日 2017年8月6日	
	※①2016/09/14～2017/01/21 ②2017/02/06～2017/07/21			
住居	① 大学(紹介)の寮・アパート	② 民間アパート	その他( )	
	通学時間	①5分 ②20分		
	通学方法	徒歩		
	居室スペース	<input type="radio"/> 個室	( ) 人部屋	その他( )
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input type="checkbox"/> キッチン	<input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> リビング
食事	自炊 70 %	学食 25 %	外食 5 % その他 ( ) %	
保険	海外旅行保険(名称)	たびほ tabiho		
	派遣先大学指定の保険(名称)	①なし ②Social security insurance	<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入	
	その他			
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)			
	①成田空港 ⇄	ロンドン(飛行機)	⇄ グラスゴー(電車)	
	②グラスゴー ⇄	オストラバ(飛行機)	⇄ パリ(飛行機)	

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	2,300,000		円							
出处										
自費	<input type="checkbox"/>	貯金	円	<input type="checkbox"/>	アルバイト	円	<input type="checkbox"/>	その他	円	
援助	<input checked="" type="checkbox"/>	両親	1,100,000	円	<input type="checkbox"/>	家族・親戚	円	<input type="checkbox"/>	その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/>	JASSO	円	<input checked="" type="checkbox"/>	その他名称(トビタテ)	1,200,000	円			
その他	<input type="checkbox"/>	円		<input type="checkbox"/>	その他( )	円				

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/>	現金	約30000	円	<input type="checkbox"/>	その他( )	円
留学中	<input type="checkbox"/>	海外送金	<input checked="" type="checkbox"/>	キャッシング	<input type="checkbox"/>	その他(基本的にはクレジットカード払い)	

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	①大学に特に支払いはなかった ②現金(Social security insurance料)
住居にかかった費用	①クレジットカード ②現金
その他	

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	円		135,151	円
海外旅行保険	円		192,790	円
OSSMA	円		19,440	円
①グラスゴー				
住居	ポンド	2,037.75	275,096.25	円
食費	ポンド	1,276.00	172,260.00	円
交通費(通学以外)	ポンド	167.00	22,545.00	円
大学に支払った経費	ポンド	121.00	16,335.00	円
美術館など	ポンド	100.00	13,500.00	円
洗濯代	ポンド	112.00	15,120.00	円
その他 ( 雑費 )	ポンド	119.00	16,065.00	円
その他 ( 衣類 )	ポンド	236.00	31,860.00	円
その他 ( 帛代など必要経費 )	ポンド	120.00	16,200.00	円
その他 ( その他 )	ポンド	77.00	10,395.00	円
②パリ				
査証・在留許可証	ポンド	112.32	14,601.60	円
住居	ユーロ	4,340.00	564,200.00	円
食費	ユーロ	1,871.00	243,230.00	円
交通費(通学以外)	ユーロ	308.00	40,040.00	円
大学に支払った経費	ユーロ	119.00	15,470.00	円
大学に支払った経費(保険料)	ユーロ	215.00	27,950.00	円
美術館など	ユーロ	270.00	35,100.00	円
その他 ( 雑費 )	ユーロ	190.00	24,700.00	円
その他 ( 衣類 )	ユーロ	172.00	22,360.00	円
その他 ( 携帯代などの必要経費 )	ユーロ	132.00	17,160.00	円
その他 ( その他 )	ユーロ	49.00	6,370.00	円
その他 ( フランス語レッスン代 )	円		66,620.00	円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	○	無
1 ①Studio work, Projects and Workshops in the Bdes/MEDes Product Design	正規	30	有	○	無
2 ②Atelier SINDALL - Eating in the city	正規	15	○	有	無
3 ②ENSCImatique	正規	3	○	有	無
4 ②Atelier de graphisma	正規	3	有	○	無
5 ②Volume	正規	3	有	○	無
6 ②Habilitation Video	正規	3	有	○	無
7 ②Design de la visualisation des donnees et informations	正規	3	有	○	無
8 (申請有無は予定です)			有		無
9			有		無
10			有		無

## 3-1. 授業科目の選択、登録方法

①通常プロジェクトは学年全員が同じものをとるため、選択肢はなし。FoCIという座学の授業は、ガイダンスの後Web上で希望を提出する。基本的に先着順で、人気の授業はすぐにアクセスしないとれないことがある。

②授業はすべて選択制。留学生のガイダンスでそれぞれの授業の説明が一通り行われ、その後アカデミック・アドバイザー(留学生担当)の先生と一対一で相談しながら授業を決めていく。私は希望が全て通ったが、人数の都合などで希望が通らない場合もしばしばあるそう。

## 3-2. 授業内容、方法に関して

①前述の通り、通常のプロジェクトは同学年の学生全員が同じものを受講する。1つのプロジェクトの期間は大体5週間程度。個人ワークとグループワーク(メンバーは指定される)を交互に行った。1つめのプロジェクトはグループで1つのブランドをつくり、それを基にした製品を提案した。2つ目はデータを用いたサービスの提案を行う個人プロジェクト。3つ目は病院の現地調査を行いそのリサーチを基に病院の環境をよりよくするためのアイデア発表を行った。(このプロジェクトにはセメスターの都合上途中までの参加だったため、リサーチのみの参加だった。FoCIはデザインに関する講義を1つ選び、1セメスター中毎週開講された。

②メインアトリエは週に3回行われる(といっても毎回講義やプレゼンテーションがあるわけではない。)授業で、ENSCIの授業の中で最も重要。6つあるアトリエから選ぶが、私は都市で飲食するための家具を考えるアトリエを選択した。このアトリエはペアワークであり、最終提案に実寸モデル又はスケールモデルが必須とされ、私たちは実寸モデルとスケールモデルの両方を展示した。アトリエによって最終成果物は様々である。この他に週1回行われる授業を3つ受講した。1つはクラウドファンディングで資金を集めることを目標にキャンペーンを考えるプロジェクト。あと2つは石膏を加工して造形を行う授業とタイポグラフィの授業を受講した。

### 3-3. 語学力について

①スコットランド訛りの英語を喋る人が多いので、何を言っているか理解できず、辛い思いをすることも多かった。(日常生活、学校生活ともに。)留学前にネイティブな英語にもっと触れながら勉強すべきだったかもしれない。この半年弱で英語力は向上したように思う。

②授業は基本フランス語だが、先生によっては英語が堪能な方や海外講師の方もいる。フランス語がほとんど出来なくてもそこまで大きな問題はなかったが、やはり日常会話レベルや聞いて理解できるくらいにはマスターしておくべきだったと思う。(私はパリに来る前にインターネットのフランス語指導を数ヶ月間受講していたが、自由に操れるまでには程遠いレベルだった。)プレゼンテーションや講評の内容が分からないと得るものも少ないので勿体無いなあと思った。またフランス人同士の会話がわからないと(彼らはあまり英語を喋ろうとしない)、少し疎外感を感じてしまうこともあった。

### 3-4. 図書館など学内施設について

①アートの総合大学だけあり、建物内も広く(グラスゴー内にいくつもの建物がある)、設備は非常に整っている。制作のための大きな工房もあるが、プロジェクト内ではあまり使うことができなかったのが残念。基本的に作業はプロダクトデザイン3年のスタジオで行っていた。広いオープンスペースで日本の研究のようなところであった。

②工房には常時スタッフがいて、作りたいものや加工方法などの相談ができる。(フランス語でだが)大学自体も24時間365日空いているので非常に便利。フォトスタジオもあり、作品やモデルの撮影も行える。工房の機材だけでなくカメラやそれにまつわる器具、パソコンなど制作に必要なものは何でも揃っていたように思う。

### 3-5. その他

特になし。

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

①グラスゴー美術大学の寮、Maegaret Macdonald House (MMH)に住んでいた。寮はもう1つBlythwoodというところがあり、MMHは古い方である。フラットメイト3人が全員日本人だったため、コミュニケーションはとても楽だったと思う。しかし、寮のイベント(パーティーやヨガイベント、映画を観る会等)などは全てBlythwoodで行われるため、MMHでは他の居住学生と関わる機会があまりなく、少し残念であった。リビング・キッチンが共用、シャワーも2人で1つのものを使っていたが、皆きれいに使用していたので快適に使用することが出来た。寮は大学からとても近いので通学にはとても便利だった。

②フランス人女性とその息子が住むアパートの1室に滞在していた。友人伝いに紹介してもらい、入居した。キッチンシャワートイレは共用であった。2人共とても優しく親切な人達だったのでとても快適に滞在することが出来た。彼女は英語をあまり喋れないのだが、Google翻訳を使うなどしてコミュニケーションはとれていた。パリの中心地に位置していたので、どこへ行くにもかなり便利な立地であった。学校へも徒歩20分ほどで通うことが出来ていた。

## 4-2. 食生活について

①イギリスはご飯がおいしくないと言うが(実際ロンドンはそうだったと思う)、スコットランドの料理は美味しく食べることが出来た。大学の学食もほとんどの料理はおいしかった。(パニーニ、ベイクドポテト、肉料理、サラダなど種類も豊富であった。)学校での昼食の割合は持参の弁当:学食=5:5くらいであった。グラスゴーにはアジアスーパーマーケットもあり、身近な日本食も購入することが出来た。ラーメン好きの自分は外食でラーメンを食べられないことが少し辛かった。

②外食は高いため、基本的に自炊をしていた。(基本的にタッパーにパスタをつめて持って行っていった。)ENSCIには提携しているベーカリーと惣菜屋があり、ENSCIの学生は割引で購入することができるため、たまにそこで昼食を買っていた。パリは日本食文化がかなり広まっているので、日本の食材はほとんど何でも買うことができ、レストランも豊富にある。(割高ではあるが…)そのため日本食が恋しくなる、ということはほとんどなかった。家ではたまにフラットメイトの女性が料理を作ってくれたりもした。

## 4-3. インターネット環境、携帯電話について

①EEというSIMカードを購入し、利用していた。1週間100MBのデータ通信量、10分の通話で1ユーロ。寮にも学校にもWifiがあるため基本的にはこれで十分であった。たまに遠出をしてGooglemapを使ったりするとすぐに上限に達してしまっていたが、このSIMカードはプリペイド式で、アプリを使ってその都度入金をした。

②FreeというSIMカードを利用していた。月額19.9ユーロでデータ通信50GB、通話メッセージ放題という破格の値段。パリに1店舗しかないお店へ行って直接購入する必要があるものの、手続きも簡単なためコストパフォーマンスを考えると非常に良いと思う。ちなみにパリ市内は公共Wifiがほとんどなく、SIMカードがないと不便かもしれないと思った。

## 4-4. 服装について

①9月初めロンドンに1週間弱滞在してからグラスゴーに移動してきたが、ロンドン(と日本)に比べると大分寒かった。服は市内のPRIMARKというお店で購入していた。

②服はキロショップという古着の量り売りをするお店で購入していた。日本からは荷物になると思い服をあまり持ってこなかったため、現地で安い服を購入し、シーズンが終わったら捨てる、という風にしていった。

## 4-5. 健康管理について

①グラスゴー到着後すぐに熱を出し、数日寝込んでしまった。フラットメイトの人たちが水を買ってきてくれたり、ご飯を作ってくれたりしたためとても助かった。病院へは行かず、ひたすら寝て市販薬を飲んで療養した。

②寝込むような風邪はひかなかったが、1度ストレスのためか胃腸炎になってしまったことがあった。この時も病院へは行かず、しばらく物を食べずに療養した。イギリスもフランスも市販薬の情報などがネットに多く出回っているため、それを参考にすることがしばしばあった。

## 4-6. 保険、OSSMAの利用

保険、OSSMAの利用することはなかった。

## 4-7. 課外活動について

学校の外では留学生の友人とパーティーをしたりすることが多かった。また週末は近場に日帰り旅行に出かけたりもしていた。基本的には1人で行っていたが、たまに留学生の友人とともに出かけることもあった。

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

基本的に学校で知り合った人と交流していたため、学外のコミュニティと関わる機会はなかった。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

長年服用している胃薬(漢方薬):食あたりした際に飲んでいたが、やはり自分の飲みなれたものが一番良いと思った。Macの充電器の延長コード:コンセントが遠くにあって届かなかったりした時に使っていた。

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

カメラのレンズを何本も持っていったが、そこまで変えることもなかったので不要だったと思う。重量があった飛行機に乗る際にも荷物になった。

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

とても新鮮だったのは、パーティー(飲み会)の人の呼び方。日本では同じグループに属している人・くり(学科、サークル、高校の同級生、等)で人を集めるが、あちらの人たちはとてもオープン。基本的に誰を呼んでもいいよというスタンスで、皆それぞれの友人を呼んでくる。初めは戸惑ったが、自分の知らない人と知り合う機会が増えるので交友関係も広がるし、新しい人間関係を築くことができるととてもいいな、と思った。しかしこういった文化は日本には根付かないな、とも感じる。しかし、仕事(学業)関係はドライだなと感じることがあった。日本だとグループワークが終了したらメンバーで打ち上げをする、ということがしばしばあるが、あちらではそういったことがほとんどなかった。(ある意味閉鎖的ではないということかもしれないが。)仕事は仕事、あくまで個人作業という感覚があるのかなと思った。

## 4-12. 余暇の過ごし方

## 旅行

<イギリス・エディンバラ>2016年9月(1日間)、約1000円  
 <イギリス・ルス>10月(1日間)、約2000円  
 <イギリス・ラナーク>10月(1日間)、約2000円  
 <アイルランド・ダブリン>11月(4日間)、約2万5千円  
 <イギリス・ロンドン、バース、ベルファスト>12月(1週間)、約5万5千円  
 <チェコ・オストラバ、プラハ>2017年1月(1週間)、約7万円  
 <フランス・リモージュ>3月(1日間)、約1万5千円  
 <イタリア・ミラノ>4月(3日間)、約3万円  
 <ポルトガル・ポルト、リスボン、ルクセンブルク、ベルギー・ブリュッセル>4月(1週間)約7万円  
 <フランス・メス>4月(1日間)、約8000円  
 <フランス・リヨン、ニース、マルセイユ>7月(5日間)、約4万円  
 <フランス・モンサンミッシェル>7月(1日間)、6000円  
 <フランス・トゥールーズ、ナント、サン・マロ>(4日間)、5万円  
 <スペイン・マドリード、グラナダ、バルセロナ>(5日間)、9万円

その他 \*気分転換やストレス発散法など。

ストレスが溜まったと感じたときや考え事をしたいなと思った時は、音楽を聞きながら一人で街をぶらぶら歩いたり、部屋にこもってお酒を飲んだりしていた。

## 5. その他

## 5-1. 留学先大学について

①デザインやアート総合大学で、色々な分野を学ぶ学生と知り合うことができる学校だったと思う。寮の申請や支払い、選択授業の申請などほとんどの手続きは簡単にオンライン上で行うことが出来たのも安心であった。メインのプロジェクトは全員が同じものを受講する点はあまり好きではなかったが、それゆえの同学年同士の繋がりというもののできたのはよかったと思う。

②学生300人弱の小さい大学で、それゆえのサポートやホーム感というものがとても良かったと思う。先生方やスタッフ、学生との距離が近くとてもよい環境で学ぶことが出来た。また授業も自分のとりたいものを選ぶことができ、非常に自由度が高いことも良かった。1つ残念だったことは語学。やはりフランス語があるとないとではコミュニケーションの幅も変わっただろうと思う。

## 5-2. 留学希望者へのアドバイス

グラスゴー美術大学、パリデザイン大学どちらかの希望する場合でも、現地の言葉はよく学んでいくべきだと思う。やはり語学の力が足りていないと、グループワークなどで自分の意見を完全に伝えることができなかったり、相手の言葉の意味をちゃんと理解することが出来ず大変だと経験から感じる。

## 5-3. 留学を終えて

ずっと行きたいと思っていた留学でしたが、終わってみると本当にあつという間でした。事前の準備や生活中に起きたトラブルの対処などいろいろな面で、親や先生方、友人などたくさんの人々に助けをいただきました。この留学生活は周りの方のサポートがあったからこそだと思っています。留学中はプロジェクトを思うように進められなかったり、周りの人たちとのコミュニケーションに悩むようなことも多くありましたが、今となってはそういった経験があつて良かったと思っています。1年間に2つの学校で学ぶという中々ない経験をすることができたのも本当に良かったです。千葉大でやっていることとは少し違う領域の分野だったため、渡航前は少し不安がありましたが、結果的にはその経験が良かったのではないかと考えています。今まで日本でやってこなかったようなプロジェクトや授業を通して、将来自分のやりたいことがより明確になったと思います。また私の留学した大学には優秀な学生も多く、今後の学業の刺激になりましたし、興味の分野も少し広がった気がします。この11ヶ月の経験を今後の学業、将来に向けて生かしたいと思っています。

お疲れ様でした